



性選択 2.0

性的対立説の理論的位置づけとその進化動態

演者 | 林 岳彦 (国環研)

講演要旨

生きることとモテることはどちらが大変だろうか。大別すると、生物の進化は「生存を巡る競争」と「繁殖相手を巡る競争」により引き起こされると言える。後者の過程（あるいは機構）は「性選択」と呼ばれ、ダーウィン以来進化学の中心的テーマの一つとして研究が行われている。実は、90年代の終わりからゼロ年代にかけて「性選択」に関する議論は（今更ながらの）メジャーアップデートを果たしている。その中心に存在したのはオスメス間の利害の対立に着目した「性的対立」という概念である。

本講演では前半において、「性的対立説」も含めた性選択に関する諸理論について現在の視点からの整理を試みる。特に、各性選択理論から示唆される進化動態は同時に生じやすいことと、その中で敢えて主要な進化的動因を見極めるためには定量的な研究が必要となることを述べる。後半では講演者自身が行った性的対立の進化動態の理論的研究について紹介を行い、種分化や繁殖形質の遺伝的多様化における性的対立の役割について議論する。

世話人 | 高橋佑磨・牧野崇司・諸澤崇裕
連絡先 | yuyuyuyu@ies.life.tsukuba.ac.jp (高橋)

筑波大学 第2エリア 総合研究A棟 107号室

2010年2月20日[土] 16:00~18:00

どなたでも参加できます